

外国人というだけで なぜ・・・？

神戸市には、約140カ国・地域、約6万人の外国人が移住しています。そのなかには開港以来の歴史的経緯等により古くから神戸で暮らす人々だけでなく、近年移り住んできた人々も含まれ、民族や文化の多様性は国際都市神戸の大きな特徴となっています。





活発な民間の外国人支援活動(NGO)

神戸市では、震災で多くのものが失われましたが、震災後の不自由な生活の中、外国人と日本人とのふれあい、たすけあい...といった交流が生まれました。こつした中から、外国人市民へ日本語学習、母国語学習、生活相談など多方面での支援を行うNGOが数多く生まれ、現在でも活発な活動がされています。

外国人市民は、年金・医療などの問題や言葉・文化・生活習慣の違いによるトラブルの発生、日本人と外国人の相互理解の不足による就職差別・入居差別などの問題、子供の教育問題など様々な問題に直面しています。また、最近、特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動(いわゆるヘイトスピーチ)が一部に見受けられます。

お互いを知ることからはじめよう

一方的に日本人の生活様式などを押し付けるのではなく、言葉や生活習慣、文化などお互いの違いを理解し、認め合った上で、共に生きる社会をつくっていくことが大切です。「言葉が通じない」、「何か問題を起こしそう」という先入観で疎外するのはなく、まず、いろいろな国の人とふれあい、多様な文化を知ることが必要ではないでしょうか。

これらの問題を解決するためには、国籍・民族の違いを問わず、すべての人がお互いの違いを認めながら人格を尊重する「多文化共生社会」を実現することが重要です。

そこで、神戸市では「神戸市外国人に対する不当な差別の解消と多文化共生社会の実現に関する条例」として、そうした社会の実現に向けた基本方針を定め、取り組みを推進しています。

やさしい日本語

外国人の中には簡単な日本語ならわかるという人も増えており、阪神淡路大震災での経験をもとに考えだされた「やさしい日本語」が注目されています。例えば、次のAとBのことばでは、Bのほうがわかりやすく感じられます。

A

1. 召し上がる
2. 土足厳禁
3. キャンセルする
4. 高台に避難する

B

1. 食べる
2. くつを、ぬいでください
3. やめる
4. 高いところへ、逃げる

以下のようなポイントに注意して、やさしい日本語を使ってみましょう。

◆やさしい日本語のポイント(例)◆

- ・ 難しいことばではなく、簡単なことばを使う
- ・ 主語と述語を明確にする
- ・ 一文を短くする
- ・ 伝えたいことを前に持ってくる
- ・ できるだけ余分な情報をカットする